

さあ、春満開です。いっきに暖かくなってまいりました。入社式、入学式の時期です。当院でも38人の新人を迎えました。教育に熱心な病院として、新人の皆が患者さんから感謝されるようになるよう一生懸命教えて行きたいと思います。

さて今日は最近ちよつとびっくりした、知人の話をしたいと思います。42歳の女性で、生来健康です。友人から薦められて、PET (Positron Emission Tomography) という検査を、**福岡和白PET画像診断クリニック**で受診しました。結果は陽性でした。その後の検査で、「甲状腺乳頭癌」と診断されました。

甲状腺乳頭癌は女性に多く発生し(男女比1:4)、人口10万人に17人の発生頻度があります。他の癌と比べて、比較的若く発生し(20~60歳に多い)、若く発症するほど生命予後は良いそうです。気付かれず無症状のまま一生を経過する人も多く、超音波での甲状腺検査を行ったところ、約11000人に140人(1.3%)の甲状腺癌が発見された(!)ところで、超音波は早期発見のためには手軽で良い検査と思います。甲状腺癌の主な自覚症状は頸部腫脹、嗄声(させい、しわがれ声)、咳、血痰、などです。

友人は間もなく手術を受けるそうですが、今手術をしておけば、20年生存率は限りなく100%に近いそうです。10mm以下で見つかった場合、施設によっては、すぐ手術をせず、経過を追って大きくなれば手術をしても予後は変わらないというところもあるようです。いずれにせよ、友人はたまたま人に誘われてPETを受診し、命拾いしたのは間違いありません。(PETは当院の検診室で申し込みができますのでお尋ね下さい。)

PETは全身の悪性腫瘍を発見するのに、5ccのFDG-PETという注射をして約40分の安静後、10数分の撮影をするだけです。他の検査と比べて、体に対する負担も非常に少なく、非常に有用で、今後は癌の検診において、「**まず、PET**」(PET at first)という時代になるのではないのでしょうか。

私もこれまで臨床の最前線で突っ走ってきましたが、友人を見習って少しは健康管理をすかなと考えさせられるこの頃です。

今年のひとりごとにも書きましたが、青鷲が裏のえぶり山に帰ってきました。夜になると何やら騒いでおります。外科の多賀先生がそのあたりの権威ですから、聞いてみてください。

第14章。

